

県内の小中学生、昨年度

漢検合格率 全国1位

理由不明…意欲の勝利？

2021年度の日本漢字能力検定（漢検）で、県内の小学生と中学生の合格率がいずれも全国1位になった。都道府県別成績の公表を始めた17年度以降で初めて。躍進の理由は定かではないものの、主催する日本漢字能力検定協会（京都市）は「大分には子どもの受検を後押しする取り組みもあると聞いている。合格を目指す中で、学習の習慣を身に付けることにつながっていったらえれば」と話した。



日頃の学習の成果を試す日本漢字能力検定の受検者たち。大人から子どもまで幅広い世代が挑戦している。2021年10月、大分市府内町の大分合同新聞社

日本漢字能力検定協会によると、21年度は県内の小学生1171人が受検し、92・1％に当たる11079人が合格。中学生は1668人中、72・7％の1213人が受かった。いずれも47都道府県でトップの合格率だった。合格ラインは階級によって異なり、70〜80％程度の得点が必要になる。

全体では小学生46万4165人、中学生59万6023人が受検し、平均合格率は小学生が86・1％、中学生が56・6％だった。

漢検最高位の1級を保持し、大分合同漢字博士認定大会で博士号を取得した大分市羽屋の公務員牧野英治さん（62）はうれしい結果。検定に挑んで漢字を学ぶことを通して、正しい日本語を身に付けることができている。好成績を維持してほしい」とたたえた。

大分県の過去の合格率は17年度が小学生26位、中学生2位で、18年度は小学生23位、中学生3位だった。19、20年度は新型コロナウィルスが受検控えなどに影

響した可能性を考慮し、公表していない。小学生の順位上昇が顕著だが、明確な理由は「一分からない」（同協会）という。

県内には若い世代の受検を支援する制度もある。国東市は19年度から小中学生の検定料を年1回分、金額補助しており、数十人が利用する。市教委学校教育課の長木正人係長（49）は「毎年、受ける階級を上げている子もおり、チャレンジ精神が育っている」と手応えを感じている。

同協会は「漢検で努力の大切さや達成感を体験することで、他の教科の勉強など新たな学習への意欲が育つことを願っている」と話した。（指原祐輔）

×
モ

漢字の読み書きの知識や意味を理解して文章で適切に使う力を問う日本漢字能力検定は1975年に始まった。これまで3歳から103歳まで幅広い世代が受検し、2021年度は全体で170万9961人が挑戦した。1〜10級までの12階級がある。個人での受検は年に3回、全国47都道府県の約180カ所で開催する。大分県は例年、大分合同新聞社などで開催している。

